

久保田米徳 （久保田） 日本畫家。嘉永五年（二月）二十五日京都生れ、明治

二十九年五月十九日歿（二八五—一九〇六）。講滿寛、宇簡伯、幼名米吉、

通稱寛。別號塵分頭陀、草の屋、草廬家、錦隣寸、錦隣寸等。鈴木白

年の師事。京都府立畫學校、京都美術協會創設に參與。明治二十二年

民友社入社。日清戦争には畫報記者として従軍。三十年石川縣立藝術學

校の教職も眼疾で退き、その後失明した。久保田米齋、久保田金徳の

父。

著書 『繪嶋之霞・青』（編畫、明治二十年九月京都・田中治兵衛刊）、

『畫法大意』（明治二十五年十月十日博文館「女學全書」）、柵瀬

軍之佐著 『隨記朝鮮時事』（畫、明治二十七年八月）二十二年春陽堂、

『日清戰鬪畫報・第二篇』（久保田米齋共著、明治二十七年十一月）一

日大倉書店）、『日清戰鬪畫報・凱旋篇』（久保田米齋

十八年八月八日大倉書店）、『美感新論』（明治二十八年十月十八日

隆文館）等。